

趣旨・問題提起

(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長
片山 信彦

グローバル化と国際援助連携の要請

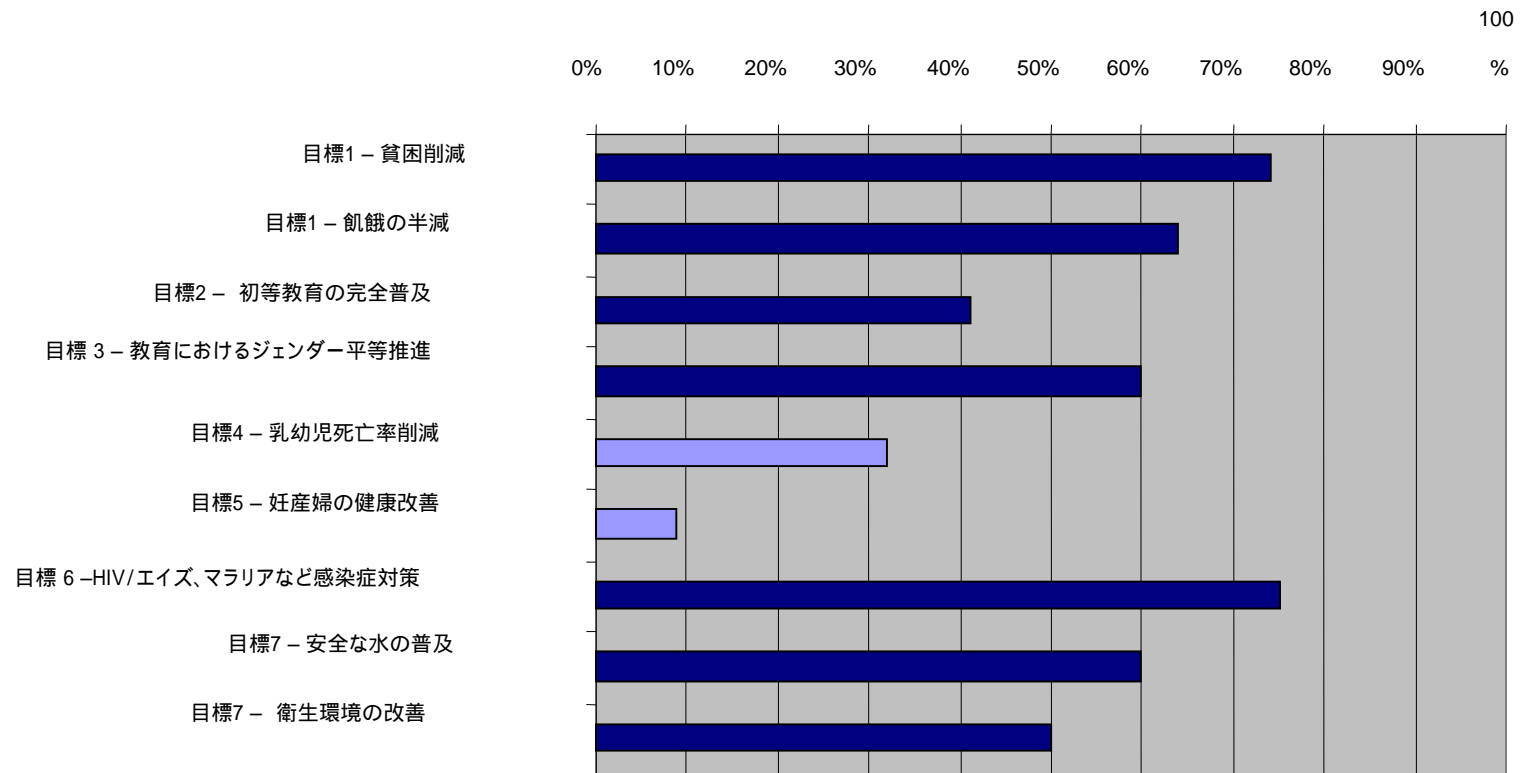
- 地球規模課題の深刻化
 - 貧困・格差、飢餓、感染症、紛争、環境・気候変動
- 危機意識と「反省」 21世紀始めの一連の国際合意
 - 国連ミレニアム開発宣言 / ミレニアム開発目標 (MDGs)
 - 1990年代に主要国際会議・サミットで議論された開発課題を一つの枠組みに総括
 - OECD国際開発目標 (1996年) 合意には日本政府も貢献
 - モンテレー合意 援助資金の増額
 - 援助効果にかかるパリ宣言

MDGsが投げかけるもの

- 根底にある基本認識
 - 人権侵害としての貧困問題の位置づけ
 - 途上国のオーナーシップ(主体性)と、途上国主導の努力を支援する国際社会の責任
 - パートナーシップの要請
- 先進国主導、二国関係重視の援助からの脱却の要請
- 途上国と先進国、他のドナー、市民社会を含む民間など多様なアクターとの関係性の変革を要請

これらの認識に立った、
ODAの目的や優先順位、実施体制改革が求められている

MDGs達成に向けた進捗状況



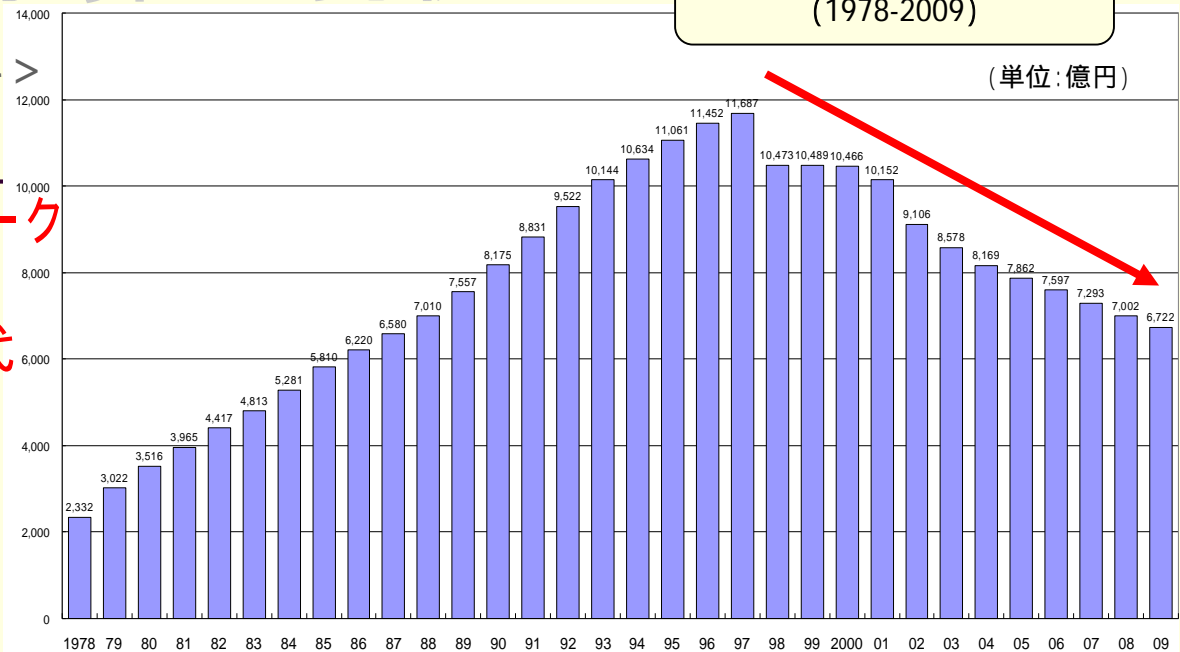
(出典: Countdown to 2015)

- これまでに一定の進捗
- しかし・・・14億人が極度の貧困、7500万人子どもが学校に行けない、880万人の乳幼児・50万人に妊産婦が命を落としている
- 世界経済危機・景気後退 貧困・飢餓人口が再び増加
- 達成期限までのタイムリミットまで、あと5年

日本のODA予算の現状

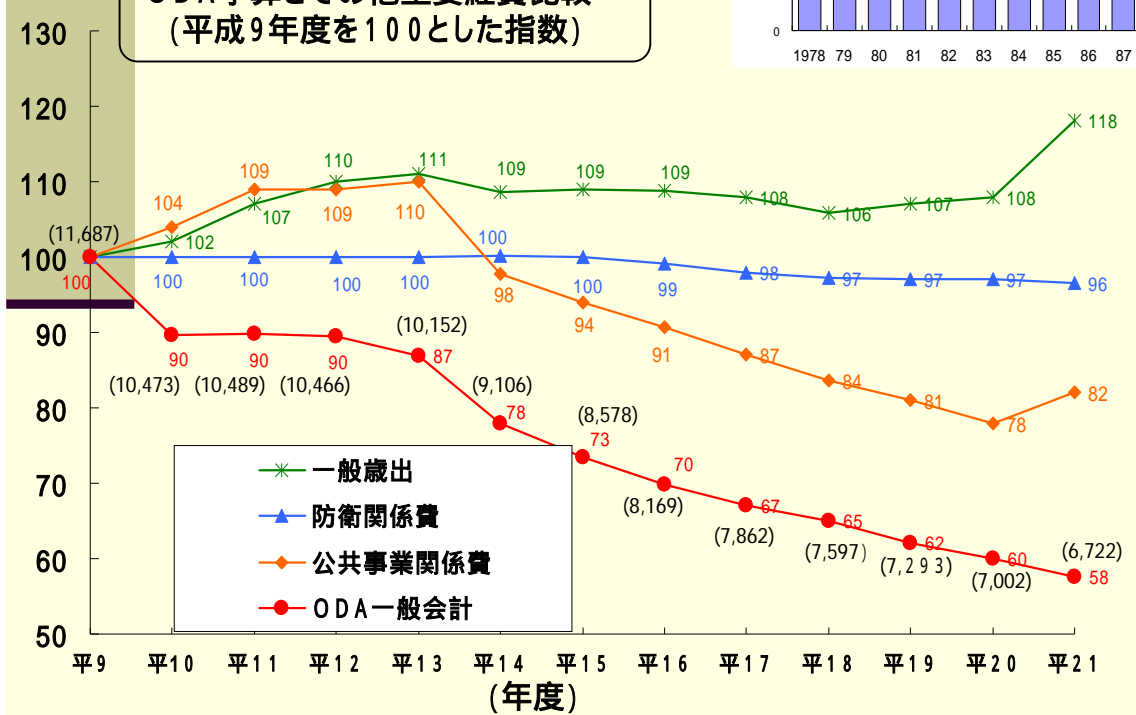
< 外務省国際協力局作成資料 >

一般会計ODA予算の推移
(1978-2009)

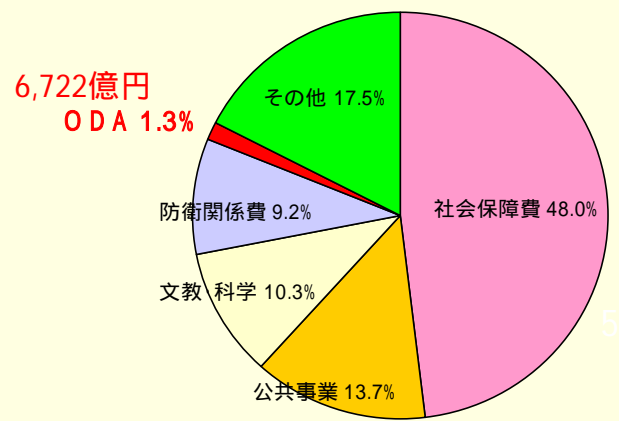


ODA予算は平成9年度をピーク
に12年間で42.5%削減
(現在のODA予算は1980年代
の水準まで落ちている)

ODA予算とその他主要経費比較
(平成9年度を100とした指数)



平成21年度予算一般歳出(約51.7兆円)における
主要経費割合



(注)平成21年度(09年度)は政府案

主要援助国と逆行する日本の援助実績 < 外務省国際協力局作成資料 >

日本は米、独、英、仏に次ぎ**第5位**に

日本のODAの対GNI比: **0.18** (21位、米と並んで**AC加盟国中最下位**)

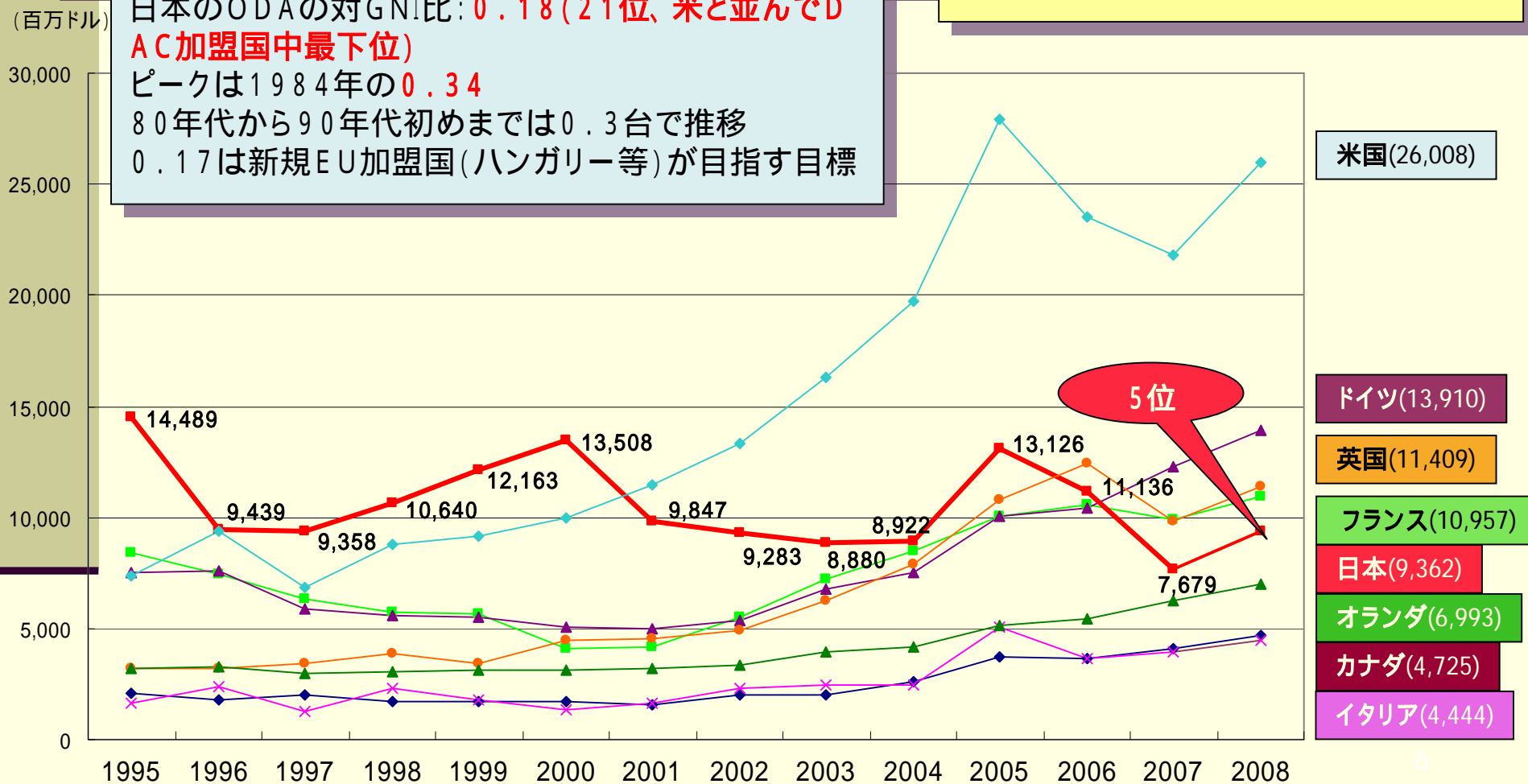
ピークは1984年の**0.34**

80年代から90年代初めまでは**0.3**台で推移

0.17は新規EU加盟国(ハンガリー等)が目指す目標

英は**2013年**までに、仏は**2015年**までの**GNI比0.7%**達成を表明

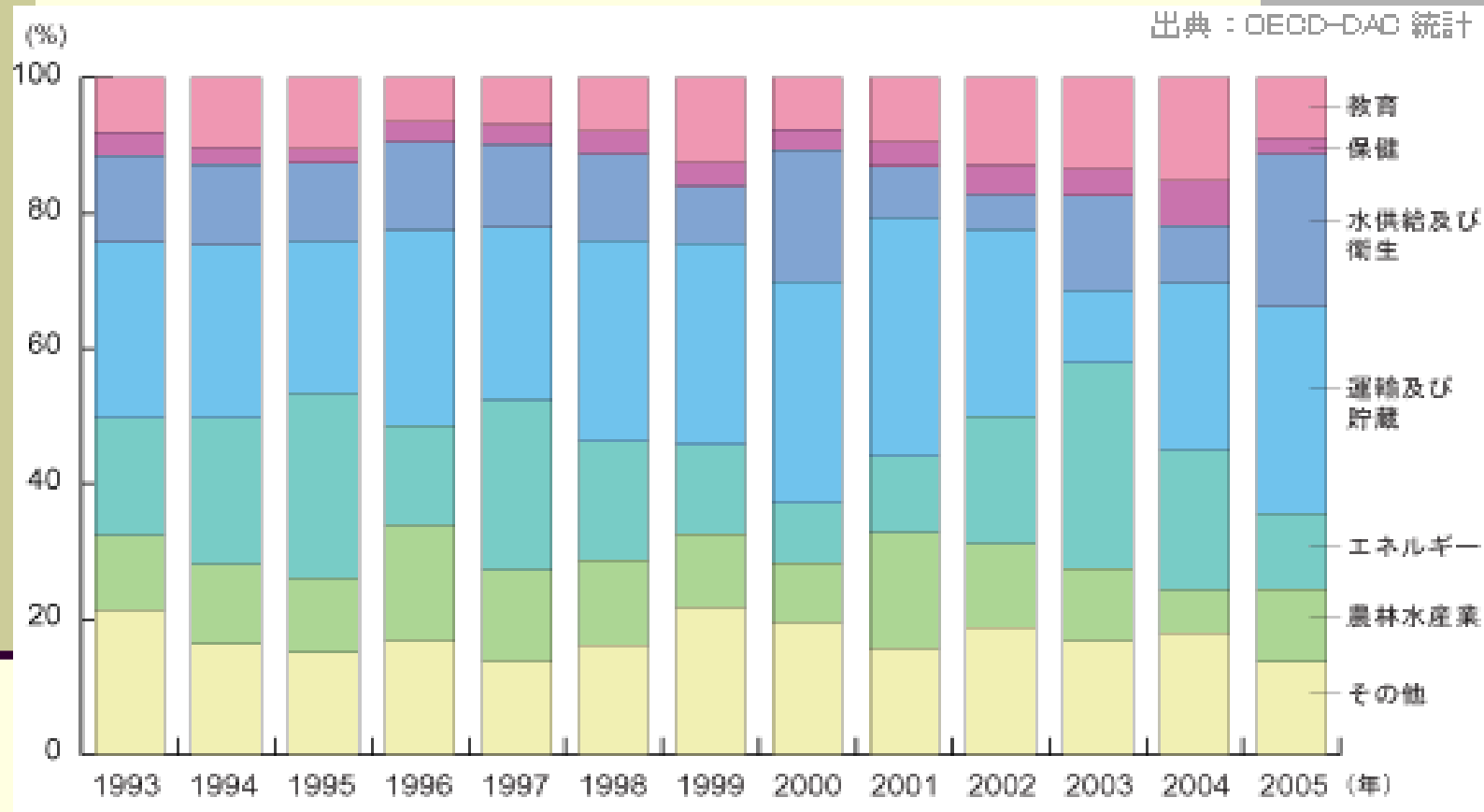
EUは**2015年**までの**GNI比0.7%**達成を公約(2005年のグレンイーグルス・サミット)



(暫定値)

()内の数字は2008年実績(暫定値)

日本のODAの分野別内訳



日本のODA、どう見られているか

- 国内世論・報道
 - 誤った認識
 - 58.6%がODAは「増加している」と回答(APIC2009年)
 - 事業仕分けをめぐる報道「ODAはこれまで「聖域」とされてきた？」
 - ODAの必要な分野
 - 貧困・飢餓、保健・医療、感染症対策、食糧、教育、水、子ども
 - 国民の賛同は？
 - 85.3%が開発途上国支援は「大切」と回答(APIC2009年)
 - ODA予算は「現状のままでよし」「削減やむなし」、ほぼ同数で3割強(同上)

- 貧困削減・MDGs達成への貢献、世界・日本の政策・実施の現場でどう見られているか。
 - パネリストの皆さんにうかがう

分科会の討議テーマ

■ 討議1

現場(政策・実施)で露呈した課題があるとするれば、それは何か？

■ 討議2

課題を克服するために、どのような政策・実施体制の变革が求められているか？